



イソギンチャクの仲間



サシバゴカイの仲間



サツマハオリムシ



ミドリフサアンコウ

©Yoshihiro Fujiwara/JAMSTEC

深海散歩に でかけよう!

～神秘と驚異に満ちた世界～

2013 11/16(土) - 12/14(土)

■開館時間 10:30-17:30(入館は17:00まで)

■休館日 日・祝 ■入場無料

桐蔭学園メモリアルアカデミウム ソフォスホール

主催：学校法人桐蔭学園 協力：独立行政法人海洋研究開発機構

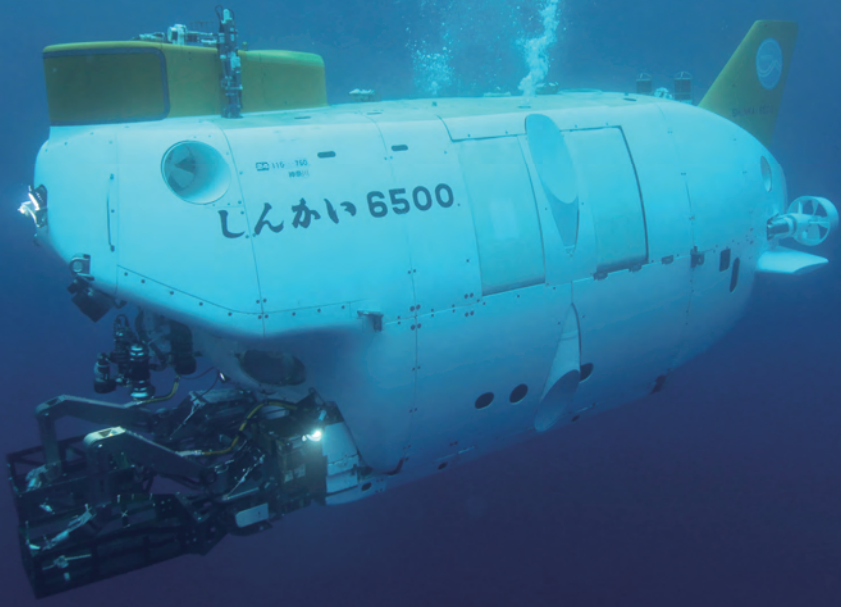
お問い合わせ先 桐蔭学園メモリアルアカデミウム 神奈川県横浜市青葉区鉄町1614 TEL.045-975-2100 <http://toin.ac.jp/ma/>

バスでのご来場をお願い申し上げます。

東急田園都市線 市が尾・青葉台各駅、または小田急線柿生駅から桐蔭学園行きバスで約15分



MEMORIAL ACADEMIUM



有人潜水調査船「しんかい6500」

「深海散歩にでかけよう！ 神秘と驚異に満ちた世界」開催にあたって
 学校法人桐蔭学園理事長 平岩 敬一

このたび桐蔭学園メモリアルアカデミウムでは、独立行政法人海洋研究開発機構のご協力の
 もと、深海についての企画展を開催することとなりました。

深海とはどのようなところなのでしょうか。私たちの目の前に広がる海は、太陽の光を受け
 て青く輝き、浅瀬では魚の姿も見えます。ところが、海に潜っていくとだんだん太陽の光が届
 かなくなり、暗闇の世界が広がります。植物プランクトンが光合成できるぎりぎりの水深が
 200m、これより深いところを一般的に深海とよんでいます。深海は、地球上の海の約90%を占
 めており、桐蔭学園から最も近い海、相模湾にも水深1000mを超える海域（相模トラフ）があ
 ります。

深海には、19世紀半ばまで生物は存在しないと考えられていました。深海は「真っ暗」で
 「低温」で「高圧」という、非常に過酷な環境です。その環境に順応するため深海で息する
 生きものたちは、光ったり、大きすぎる目や口をもっていたり、あるいはなかったりと、普段
 私たちが見慣れた生物のイメージとはまったく異なる姿をしています。また、深海の生きもの
 たちのなかには、人間には有毒な硫化水素など、地上では考えられない物質を栄養源にして生
 命を維持しているものもいます。

現在深海には、数十万種以上の生きものがいると言われてはいますが、人類が踏み入った深海
 海域はほんのわずかで、そのほとんどが未踏です。これからさらに、未知の生物や、様々な新
 しい発見に出会えることでしょう。

会場では、深海の生きものたちの剥製標本や、写真パネルを展示します。また、海洋研究の
 第一線をいく有人潜水調査船「しんかい6500」や深海巡航探査機「うらしま」、地球深部探査
 船「ちきゅう」などの模型から、日本の優れた技術開発力にも注目してほしいと思います。

たくさんの不思議に包まれている、深海。本展を通じて、豊かな想像力と探求心が育くまれ
 ることを願います。



画像・イラスト提供：海洋研究開発機構

＜各駅からのバスのご案内＞
 ●東急田園都市線 青葉台駅よりバス
 「桐蔭学園前」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園前」
 下車
 ●東急田園都市線 市が尾駅よりバス
 「桐蔭学園前」行、終点。または「青葉台駅」行、「桐蔭学園前」
 下車。または「柿生駅北口」行、「桐蔭学園入口」下車
 ●小田急線 柿生駅よりバス
 「桐蔭学園」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園入口」
 下車

＜タクシーご利用の場合＞
 東急田園都市線 青葉台駅、または小田急線 柿生駅からが
 便利です。行き先は「桐蔭学園鉄（くろがね）神社前」と
 お伝えください。
 ※駐車場はございませんので、お車での来場はご遠慮ください。



地球深部探査船「ちきゅう」



支援母船「よこすか」



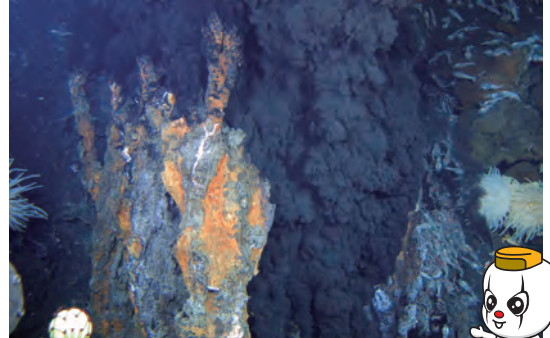
ニッキー
 (しんかい2000)



深海巡航探査機「うらしま」



有人潜水調査船「しんかい2000」と
 支援母船「なつしま」



「しんかい6500」の調査潜航で撮影された
 ブラックスモーカー



ロッキー
 (しんかい6500)



化学合成生態系の生きものたち。ヘイトウシンカイヒバリ
 ガイ、キノミフネカサガイ、ゴエモンコシオリエビ



ウーラー
 (うらしま)